

向田音専

～「オペラ座の怪人」に学ぶオ・ペ・ラ～

本題材で育成する資質・能力

(教科)音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度
(学校)表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 平成29年11月17日 10:40～11:30
- 2 学年 第2学年1組 (男子17名 女子21名 合計38名)
- 3 場所 音楽室
- 4 題材について

- 本題材は、中学校学習指導要領（平成20年）音楽の第2学年及び第3学年「B 鑑賞」の指導事項「(1)イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。」、また、〔共通事項〕は音色を扱う。

本題材で扱うオペラやミュージカルは、演劇的要素、舞踊的要素、美術的要素などのかかわりから成立している総合芸術である。イタリアオペラ「アイダ」は、美術的要素の側面から地域の風土や文化が理解しやすいように造られ、音楽では独唱、重唱、合唱などの様々な歌唱形態を観ることができる。また、フランスオペラ「カルメン」は、声域による配役が特徴的で、生徒が知っている名曲が多数ある。

また、総合芸術の中のミュージカルは、映画との結びつきが強く、ディズニー映画を含むミュージカル映画は生徒の多くが興味を持っている。「オペラ座の怪人」は現在広島で公演中のミュージカルで、舞台がオペラ座であることから、オペラから派生したオペラ的要素をも含んだミュージカルとなっている。

本題材の学習を通して、オペラとミュージカルの音楽が、舞踊、演劇、美術などと深く結びついて総合的な表現を生み出していることを感じ取らせ、音楽の特徴をその背景となる他の芸術とどのように関連しているのかを理解させることによって、一層深まりのある鑑賞の学習を目指している。

- 本学級の生徒は、音楽活動に興味を持ち、特に表現活動においてはかなり積極的に活動することができる。鑑賞活動にも積極的ではあるが、クラシック音楽など未知の音楽については興味が薄いようである。

本題材のテーマ「オペラ」についてイメージする言葉を尋ねたところ、「大きな人が歌う」「響く声で歌う」「オペラ座の怪人」などの発言があった。一方「ミュージカル」については「歌って踊る」「楽しい話」「宝塚」「劇団四季」などがあつた。これより「オペラ座の怪人」はオペラだと思っている生徒が多く、ミュージカルだと認識していないことがわかつた。さらに題材を貫く問いである「オペラとミュージカルの違いは？」との問いかけに対しては無言になり、答えられない様子が見られた。本題材では「オペラとミュージカルの音楽的な違い」について、言葉で表現し他者に伝えることができるような生徒を育成したい。

- 指導に当たっては、より身近にあり、イメージが捉えやすいミュージカルから取り扱う。またオペラについては、古くから名曲が数多くあることから、これらが身近な生活やメディアの中に潜んでいることを体感させるような選曲をする。オペラがミュージカルの舞台芸術の根本であることを実感し、今のミュージカルや映画のように、オペラも昔の人々の娯楽であったことを理解させたい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科、領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、「解決したい」或いは「達成したい」学習課題を設定し、学習班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

	資質・能力	レベル1	レベル2	レベル3
知識・スキル	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）			
	表現力・コミュニケーション能力	（話す） 自分の考えや意見を、自分のことばで、表現することができる。	わかりやすく（伝える） 自分の考えや意見を、わかりやすくまとめ、自分のことばで、表現することができる。	（説得する） 自分の考えや意見を、わかりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で、表現することができる。
		（聞く） 相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、聞いている。	（聴く） 話の組み立て構造を考えながら、相手の意図や要点を整理しながら、聴くことができる。	（訊く） 相手の考えについて根拠の信頼性を判断しながら、訊くことができる。話された内容と自分の意見をふまえて疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。
		聞いて質問することができる。 （やりとり1回）	さらに深めた質問ができる。 （やりとり2回）	質問の後に自分の意見を述べ、内容を深めることができる。 （やりとり3回以上）
意欲・態度	主体性	課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで、取り組もうとしている。	自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで、取り組もうとしている。

6 目標

- オペラやミュージカルの特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組む。（音楽への関心・意欲・態度）
- 音楽の特徴や魅力について他の芸術との関わりを理解しながら味わい、そのよさの根拠を言葉で説明する。（鑑賞の能力）

7 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
・オペラやミュージカルの特徴とその背景となる歴史や他の芸術との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	・オペラやミュージカルの声色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、その背景となる歴史や他の芸術と関連づけて理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。

8 指導計画（全4時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点		評 価	
			関意	鑑賞	評価規準	資質・能力 （評価方法）
プロローグ（題材を貫く問い） オペラとミュージカルの音楽的な違いは何か？						
課題の設定・情報収集	1	オペラの魅力である，総合芸術性や声域の特徴，様々な演奏形態について学ぶ。 （2時間）	○		オペラやミュージカルの特徴とその背景となる歴史や他の芸術との関連に関心を持ち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	【主体性】（ワークシート）
整理・分析 まとめ・創造・表現	2	「オペラ座の怪人」のオペラの側面とミュージカルの側面の比較をし，どちらも併せ持ったミュージカルだということを理解する。 【本時1／1】		○	オペラやミュージカルの声色を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，その背景となる歴史や他の芸術と関連づけて理解して，解釈したり価値を考えたりし，鑑賞している。	【コミュニケーション能力】 （グループワークの様子）
実行・振り返り	3	オペラの歴史や良さをふまえ，プロローグの問いに対する結論をグループで出す。（1時間）		○	オペラやミュージカルの声色を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，その背景となる歴史や他の芸術と関連づけて理解して，解釈したり価値を考えたりし，鑑賞している。	【表現力】（ふり返し） 【音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度】（ふり返し）
エピローグ（題材を貫く問いの解決）オペラはマイクのない時代に劇場で遠くに届けるために響きのある発声をしている。またミュージカルはマイクを使って届けられる現代に生まれたため，台詞に近い発声ができる。時代の変化に伴って技術が進化し，娯楽としての幅が広がった。						

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○「オペラ座の怪人」の発声や伴奏など音楽の特徴をオペラと比較することで理解し，オペラではないということを，根拠をもって説明することができる。





(2) 本時の評価規準

・「オペラ座の怪人」の発声や伴奏など音楽の特徴をオペラと比較することで理解し，オペラではないということを，根拠をもって説明している。（鑑賞の能力）

(3) 準備物

DVD，PC

(4) 学習の流れ (3 時間目 / 全 4 時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準 [観点] ★資質・能力 (評価方法)
1 既習事項の確認。[3分]		
<ul style="list-style-type: none"> ・オペラ「アイーダ」の凱旋の場を見る。 ・オペラの声域や演奏形態について復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇オペラ「アイーダ」の凱旋の場を見せる。 ◇既習事項を確認させる。 ◇オペラの声域や演奏形態について、表にしてホワイトボードに掲示しておく。 	
2 本時の課題を設定する。[5分]		
<ul style="list-style-type: none"> ・「オペラ座の怪人」の1シーンを見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「オペラ座の怪人」のオペラの側面が強いシーンを見せ、オペラなのか、オペラではないのか、と疑問を持たせる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> <p>学習課題 「オペラ座の怪人」はオペラか、オペラではないのか！？徹底検証！！</p> </div>		
3 ねらいを確認する。[1分]		
<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいは授業の最後に確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇学習のまとめのあとにねらいを確認し、ゴールを示す。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> <p>ねらい 「オペラ座の怪人」の発声や伴奏など音楽の特徴をオペラと比較することで理解し、オペラではないということを、根拠をもって説明することができる。</p> </div>		
4 情報を整理・分析し、課題解決をする。[20分]		
<ul style="list-style-type: none"> ・「オペラ座の怪人」について新たな3つのシーンを見る。課題に基づいて、気づきを書き出す。(個人思考) ・4人グループで話し合い、ホワイトボードにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇シーンA～Cを通して流す。 ◇既習事項の表を参考にして、映像を見ながら「オペラか、オペラではないのか」を判断するための気づきを書き出す。 ◆後ろの人たちに注目して映像を見るよう声をかける。 ◇シーンA～Cをもう一度流す。この間は話しながら見ても良いことにする。 ◇シーンA～Cについてオペラか、オペラではないかの結論と根拠をホワイトボードにまとめさせる。 ◇4人グループでは司会、書記、発表者、スペシャリスト(その他の役割をする人)で役割分担をしておく。 	<p>★コミュニケーション能力 (グループワーク)</p>
		

5 課題解決について発表をする。[10分]														
<ul style="list-style-type: none"> 3つのシーンについてそれぞれ3枚ずつホワイトボードを出し、発表し合う。 自分で見つけられなかったことを色ペンで書き入れる。 	<p>◇ホワイトボードを前に集め、シーンA～Cについてオペラではない根拠を書いている班をピックアップして発表させる。</p> <p>A : マイクがついている, 伴奏にギターがある</p> <p>B : 台詞が入っている, 歌う人もいるけどしゃべっている人もいる</p> <p>C : みんな踊りながら歌っている, 主役も踊っている</p>													
6 学習のまとめをする。[5分]														
<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードをもとに、「オペラ座の怪人」のオペラとの相違点をまとめる。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>オペラとの相違点</th> <th>オペラだったら・・・</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>シーンA</td> <td>伴奏の音楽に、エレキギターが使われている。</td> <td>伴奏の音楽はオーケストラによるクラシック音楽である。</td> </tr> <tr> <td>シーンB</td> <td>歌を中心的に歌う人もいれば、台詞のように歌う人もいる。</td> <td>重唱は1人1人の歌唱力を見せる場であるため、台詞はない。</td> </tr> <tr> <td>シーンC</td> <td>踊っている人も歌っている。主役の人たちも踊っている。</td> <td>踊りはダンサーが専門的に行い、歌手は踊らない。</td> </tr> </tbody> </table>		オペラとの相違点	オペラだったら・・・	シーンA	伴奏の音楽に、エレキギターが使われている。	伴奏の音楽はオーケストラによるクラシック音楽である。	シーンB	歌を中心的に歌う人もいれば、台詞のように歌う人もいる。	重唱は1人1人の歌唱力を見せる場であるため、台詞はない。	シーンC	踊っている人も歌っている。主役の人たちも踊っている。	踊りはダンサーが専門的に行い、歌手は踊らない。	
	オペラとの相違点	オペラだったら・・・												
シーンA	伴奏の音楽に、エレキギターが使われている。	伴奏の音楽はオーケストラによるクラシック音楽である。												
シーンB	歌を中心的に歌う人もいれば、台詞のように歌う人もいる。	重唱は1人1人の歌唱力を見せる場であるため、台詞はない。												
シーンC	踊っている人も歌っている。主役の人たちも踊っている。	踊りはダンサーが専門的に行い、歌手は踊らない。												
<ul style="list-style-type: none"> 最初の「オペラ座の怪人」の1シーンを見て、学習課題を解決する。 	<p>◇最初の1シーンでもダンサー役の人たちが歌っていることに気づけたら、オペラではなくミュージカルであるという結論が出せる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「オペラ座の怪人」の発声や伴奏など音楽の特徴をオペラと比較することで理解し、オペラではないということを、根拠をもって説明している。〔鑑賞の能力〕 												
<p>「オペラ座の怪人」のシーンでは、ダンサーがバレエを専門的に踊っているだけではなく合唱に参加をしていた。オペラではダンサーはバレエをするだけのはずなので「オペラ座の怪人」はオペラではなくミュージカルである。</p>														
7 本時を振り返り、次時につなげる。[5分]														
<ul style="list-style-type: none"> 振り返りを書く。 	<p>◇まとめを最低2人の生徒から発表させ、個人で振り返る。</p>													
<p>生徒の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 「オペラ座の怪人」はオペラと似ているところもあるが、オペラとは違って今の技術を使ってギターを取り入れたりマイクを使ったりしているため、オペラとは違ってミュージカルである。 														

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度(評点・レベル)	記述語
A (理想的)	「オペラ座の怪人」におけるオペラとの相違点を3つ以上根拠にして、オペラではないという説明ができる。
B (合格)	「オペラ座の怪人」におけるオペラとの相違点を2つ根拠にして、オペラではないという説明ができる。
C (乗り越えさせたい実態)	「オペラ座の怪人」におけるオペラとの相違点を1つ根拠にして、オペラではないという説明ができる。

(5) 板書計画

ねらい 「オペラ座の怪人」の発声や伴奏など音楽の特徴をオペラと比較することで理解し、オペラではないということを、根拠をもって説明することができる。

学習課題 「オペラ座の怪人」は本当にオペラではないのか！？映像を元に検証しよう！

シーンA

シーンB

シーンC

ミニホワイトボード1	ミニホワイトボード2	ミニホワイトボード3	ミニホワイトボード4	ミニホワイトボード5	ミニホワイトボード6	ミニホワイトボード7	ミニホワイトボード8	ミニホワイトボード9
------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------

まとめ (ホワイトボード裏)

ふり返し

<ホワイトボード表>

オペラの声域	役の特徴	オペラは歌を中心に進む劇 →歌 ①セリフのように軽く歌う ②感情をしっかりと歌いあげる	
		演奏形態	特徴
ソプラノ	ヒロイン, 可愛い		
メゾソプラノ	ライバル, 友人		
アルト	母親, 脇役	独唱	1人で歌い上げる
テノール	ヒーロー, イケメン	重唱	複数のパートを1人ずつ歌う
バリトン	ライバル, 悪役	合唱	複数のパートを複数名で歌う
バス	威厳ある役	器楽	オーケストラのみで演奏される

<ホワイトボード裏>

	オペラとの相違点	オペラだったら・・・
シーンA	伴奏の音楽に、エレキギターが使われている。	伴奏の音楽はオーケストラによるクラシック音楽である。
シーンB	歌を中心的に歌う人もいれば、台詞のように歌う人もいる。	重唱は1人1人の歌唱力を見せる場であるため、台詞はない。
シーンC	踊っている人も歌っている。主役の人たちも踊っている。	踊りはダンサーが専門的に行い、歌手は踊らない。